

心理学的な理論と支援(司法・犯罪心理学)	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	4単位	R	1・2年
	担当教員	半澤 利一	

■授業のテーマ

司法・犯罪心理学の視点

■授業の目的

少年非行という不適応行動を通して、司法・犯罪心理学における理解の仕方や更生支援の方法を実学的に学ぶ。

■授業の到達目標

- ①少年非行について行動化を伴った社会的不適応として捉え、形成要因を分析して対応や処遇の方策を考察することができる。
- ②人間の発達や性格形成に影響する社会的環境について説明することができる。
- ③再犯を抑制して社会適応を促す処遇方法を選び、更正に向けた心理的支援の基本的技法を実践できる。
- ④心理・社会的支援によって問題行動を改善して行く方法を策定することができる。

■授業の概要

平成28年12月、「再犯の防止等の推進に関する法律」(再犯防止推進法) が公布されました。少子高齢化が顕著である現代社会において、一般の高齢者の増加率より刑事施設に収容される高齢者の割合の高まりが著しく、刑法犯の検挙数が減少しても、成人の再犯率や非行少年の再非行率も増加している実情が認められます。この法律では、罪を犯した人々が刑事施設等から出所後も社会で孤立することなく円滑に社会復帰できるよう、地方公共団体や保健医療等関係機関、民間支援団体が緊密に連携して継続的に支援することが求められています。

安全で安心して暮らせる社会を実現するために、矯正処遇や更生保護の専門家ではない人々の関わりが求められる一方、公認心理師の業務においても「司法・犯罪分野」が示されて資格取得のための必修科目とされています。今後ますます心理学的な知見や方法が司法・犯罪分野において活用される期待が高まることは明らかです。

非行少年は、犯罪に至る動機や性格的な理解、審判や処遇制度など成人の犯罪者とは異なる部分がありますが、彼らをつぶさに見ていくことで、社会から逸脱したり、反社会的行動を生み出す要因や更生支援についての基本的な考え方が習得できます。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ(テキスト関連章)	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	少年非行の定義と動向 (テキスト第1章 第1～2節)	少年非行の法的な定義や動向を知る	非行を心理学的に捉える前に、法律で定められた概念や制度の下で審理されること、時代的な推移を学びましょう
2	少年非行の原因と説明理論① (テキスト第2章 第1節)	少年非行に関わる様々な要因(リスク要因)について	日米の調査研究から概観することで、非行の発生に関わり得る心理・社会的な要因を一覧することになります。
3	少年非行の原因と説明理論② (テキスト第2章 第2節)	非行の説明理論を学ぶ	社会学や精神医学など近接領域から非行の発生を説明した理論を学ぶことで、非行を多面的に見る視点を養いましょう。

	学修のテーマ(テキスト関連章)	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
4	凶悪・粗暴な非行の前兆と背景① (テキスト第3章 第1節)	凶悪な非行の要因を見る	未成年者による凶悪事件の動機や要因について、科学警察研究所が行った調査研究の結果から学びましょう。
5	凶悪・粗暴な非行の前兆と背景② (テキスト第3章 第2節)	粗暴傾向を持つ少年の背景について	警察における相談事例の調査研究から、粗暴傾向を高める要因について見えてきました。対応の手がかりを考えましょう。
6	少年非行の諸相① (テキスト第4章 第1節)	非行集団について	成人よりも少年において集団による犯行が多い傾向が認められます。集団が非行の発生にどう影響するのかを考えましょう。
7	少年非行の諸相② (テキスト第4章 第2節)	女子非行の特徴と実情	一口に少年非行と言っても、性別によってその特徴や犯罪類型、背景となる要因にかなりの違いがあることを知しましょう。
8	少年非行の諸相③ (テキスト第4章 第3節)	被害から加害への転化	非行少年の生い立ちから虐待などの被害体験を多く受けていたこと分かりますが、その転化のメカニズムを理解しましょう。
9	非行を未然に防止する活動① (テキスト第5章 第1節)	地域社会における非行防止活動	非行防止活動を通して、地域や住民による社会的支援活動一般について、その意義や効果を考えましょう。
10	非行を未然に防止する活動② (テキスト第5章 第2節)	警察における少年相談	少年警察補導員などによる相談活動には、心理・社会的支援の基本が織り込まれ、カウンセリングにも通じることを学びます。
11	少年事件の法的手続き① (テキスト第6章 第1節)	家庭裁判所における社会調査	審理の流れを理解すると共に、家庭裁判所調査官の業務を理解し、社会調査の観点や方法を学びましょう。
12	少年事件の法的手続き② (テキスト第6章 第2節)	少年鑑別所における心身の鑑別	入所中の非行少年に対して、面接や心理検査、行動観察など様々なアセスメントを行う少年鑑別所の方法に学びましょう。
13	非行少年の処遇① (テキスト第7章 第1節)	少年院での施設内処遇	福祉施設や医療施設とは異なり、集団処遇を中心に効果的な処遇を行う、少年院特有の方法を学びましょう。
14	非行少年の処遇② (テキスト第7章 第2節)	少年刑務所での矯正教育	青年刑務所とも言われる刑事施設内で、若年受刑者向けの処遇がどのように行われているかを知しましょう。
15	非行少年の処遇③ (テキスト第7章 第3節)	保護観察所による更生保護活動	非行化抑制のための少年相談活動とは異なる、いわば出口支援としての社会内処遇の制度と方法を学びましょう。

■レポート課題

課題 1	非行少年の生育史をたどると虐待など不適切な養育を受けていたことが多いと言われるが、被虐待児などのすべてが非行化するわけではない。これは何故かその理由を考察し、どのような要因が働くか非行化が抑制されると考えられるかを、仮想事例を想定するなどして具体的に述べなさい。
課題 2	非行少年に対する審理は成人とは異なる制度によってなされるが、その理由と効果について論じなさい。その際、少年法の理念など法制度的な根拠だけではなく、両者の犯罪性や性格傾向などの差異、発達段階などの心理学の概念を使って説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題1 アドバイス

必読図書の著者の見解を踏まえながら、まず、反社会的行動の原因や性格形成について自分なりの考え方を明確にしてください。そこにどのような社会的な要因が関わると非行化するか、しないかを考えてください。自分や周囲の人々の経験（※匿名性に要配慮）、メディア等で知り得た事柄などを例にしても結構ですが、必ず自分の見解を加えてください。

課題2 アドバイス

必読図書にはいずれも回答の手がかりが書かれていますが、非行少年と成人の犯罪者の比較検討がひとつのポイントになります。ご自身や周囲の人々の経験（※匿名性に要配慮）、メディア等で知り得た事柄などを例にしても結構ですが、必ず自分の見解を加えてください。

■評価の方法・基準

心理学的な知見を用いながら自分の言葉でまとめることに加え、それを現実場面に適用して自分なりに整理し、実践的に応用していくのかについて、どれだけ考察されたかを評価する。

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

- ＊1）小林寿一編著 2008 『少年非行の行動科学—学際的アプローチと実践への応用』北大路書房（※「在宅学修15のポイント」は本書の章立てに従っています。）
- ＊2）藤岡淳子著 2017 『非行・犯罪の心理臨床（こころの科学叢書）』日本評論社
- ＊3）村尾泰弘著 2012 『非行臨床の理論と実践』金子書房
- 4）法務省法務総合研究所 2021 『令和5年版犯罪白書—非行少年と生育環境—』法務省法務総合研究所（※過去の「犯罪白書」を含め、全文を法務省のHPから閲覧、ダウンロードできます。https://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html）
- 5）岡田尊司著 2011 『愛着障害 子ども時代を引きずる人々』光文社新書
- 6）齋藤万比古著 2015 『子どもの精神科臨床』星和書店
- 7）宮口幸治著 2019 『ケーキの切れない非行少年たち』新潮新書
- 8）日本犯罪心理学会編集 2016 『犯罪心理学事典』丸善出版